

区分・種別	県指定無形民俗文化財		
名称	ごたんだのはしらまつり 五反田の柱祭		
所在地	八幡浜市五反田		
所有者		保護団体	柱祭保存会
指定年月日	昭和40年4月2日 県民俗資料 昭和52年1月11日 県指定替え		
解説	<p>五反田に金剛院という修験者がいた。戦国時代、<sup>もと</sup>元城主摂津豊後守と萩森城主宇都宮房綱が戦った時、金剛院は九州の旅先から急きよ立ち返り、夜中に<sup>たいまつ</sup>松明をともして元城に登ろうとしたが、城兵が敵と誤って射殺した。江戸時代になって五反田に悪病が流行したが、これは金剛院の<sup>たた</sup>崇りであると噂が広まり、金剛院の霊を鎮めるために柱祭が始まったと伝えられている。</p> <p>毎年8月14日の夜、五反田河原（防災上昭和50（1975）年から王子森公園）に、先端に麻木の入った漏斗状のかごを取付けた20メートル余りの柱を立て、神事が行われたあと、各地区から集まった若者が1メートルほどの細綱に麻木を束ねて火をつけ、それを柱上のかごを狙って一斉に投げ上げる。命中して麻木かごが燃えあがって行事が終わる。夜空に火玉が乱舞する勇壮な光景と、競争が伴う投げ松明の火祭りは、伝承奇習の行事として親しまれている。</p>		

